



# 尾道文学 談話会会報

第十三号

尾道市立大学芸術文化学部  
日本文学科



## 目次

幻を掘り起こして

↳尾道の文芸誌発掘記↳

林 良司

1

尾道（小野道、苧の道）の登場する読本『金花夕英』

藤沢 毅

27

広島県尾道市三成地区の方言記述

——地域の文献資料に残る方言談話から捉える——

藤本真理子

43

令和三年度日本文学科フィールドワーク成果報告

——フィールドワークの事前指導から実地踏査、事後学習まで——

藤本真理子

畠田 桜和

山岡 瑞穂

51

『百人一首図絵』を読む

——相模の歌意絵をめぐる——

藤川 功和

61

永井荷風『断腸亭日乗』管見

——昭和二十年夏、岡山の八十日——（補遺三）

寺杣 雅人

73

光原百合先生追悼作品展示について

平山 直樹

85

光原先生をしのぶ

高垣 俊之

111

昔話の扉をひらく4 「夢見小僧」

——信じ続けた人——

藤井 佐美

113

白樺の木の下で

石岡 孝善	内海 昌子	亀田 芳子
北浦 一馬	鶴岡 秀子	花田 智佳子
東 嘉美	古澤 和子	山本 朝子

133

令和4年度尾道文学談話会テーマ一覧

144

『尾道文学談話会会報』第12号目次

145

S Fアニメとジェンダー…ヒーローたちの what-if

小畑 拓也

(1)

澤田瞳子『火定』を社会経済史の目で読むーパンデミック時代小説の闇を潜るー

勝矢 倫生

(9)

本誌『尾道文学談話会会報』掲載論文等は、広島県大学共同リポジトリ(略称HARR)によってインターネットでもご覧いただけます。(http://harp.lib.hiroshima-u.ac.jp/)

## 編集後記

『尾道文学談話会会報』第十三号をお届けします。

今号は日本文学科専任教員のほか、学生との共著、名誉教授二名、尾道市市史編さん委員会事務局一名の方による合計十一編を収め、本学における研究と教育の一端をご紹介しております。読者欄「白樺の木の下で」には、参加者九名のご投稿を掲載いたしました。盛りだくさんの内容は、地域の方々との変わらぬ交流に支えられてきた談話会ならではの成果といえましょう。

コロナ禍への対応が求められる中、今年度の談話会は日程調整をしながら全五回を開催できました。会場は尾道市役所2階多目的スペース、予約二十名までとし、感染予防対策のもとでおこないました。新庁舎での開催は初の試みでしたが、中止や延期を乗り越えながらの再出発にふさわしい、有意義なひとときとなりました。

さて、掲載内容のとおり、本学で精力的に創作指導と地域活動を進められてきた光原百合教授が昨夏逝去されました。ミステリー作家としてのご功績はもちろんです。小説家に憧れるたくさんのお学生達を育ててこられました。ご尽力の成果が今後もさまざまな形で花開くことを信じ、心よりご冥福をお祈りします。

日本文学科は地域貢献を含め、さまざまな研究成果、専門性の社会還元結びつくこのような機会を大切にしながら、引き続き皆様と楽しい時間を共有できればと考えます。どうぞ今後ともよろしくご理解とご協力をいただきます。

ますようお願い申し上げます。

なお、開催日程、開催会場については広報等を通じてお知らせしますが、時節柄余儀なく変更が生じる場合もあります。皆様に安心安全な環境で楽しくご参加いただくためにも、お手数ですが事前に本学・地域総合センター（Ⅷ、〇八四八〽二二〽八三二一）へご確認の上、ご予約をいただきますようお願いいたします。

（吉田 宰 藤井 佐美）

### 尾道文学談話会会報 第十三号

二〇二三年二月四日 印刷

二〇二三年二月四日 発行

発行者 尾道市立大学芸術文化学部日本文学科

印刷所 三原プリント株式会社

三原市和田一丁目五一―三

電話（〇八四八）六四一―六四三

発行所 尾道市立大学芸術文化学部日本文学科

尾道市久山田町一六〇〇―二

電話（〇八四八）二二一八三一―

表紙デザイン

尾道市立大学芸術文化学部美術学科

グラフィックデザイン専攻

上田 彩乃（うえた あやの）



2023.2.4

ISSN2185-2456